

SinBackup

同期式ファイルバックアップソフトウェア

Version 2.2.1

セットアップ手順



© 2014 Hiapplica

- 目 次 -

1.	インストール	3
2.	動作設定	7
3.	起動方法	9
4.	自動化処理	9
5.	アンインストール	9

SinBackup (同期式ファイルバックアップソフトウェア) セットアップ手順

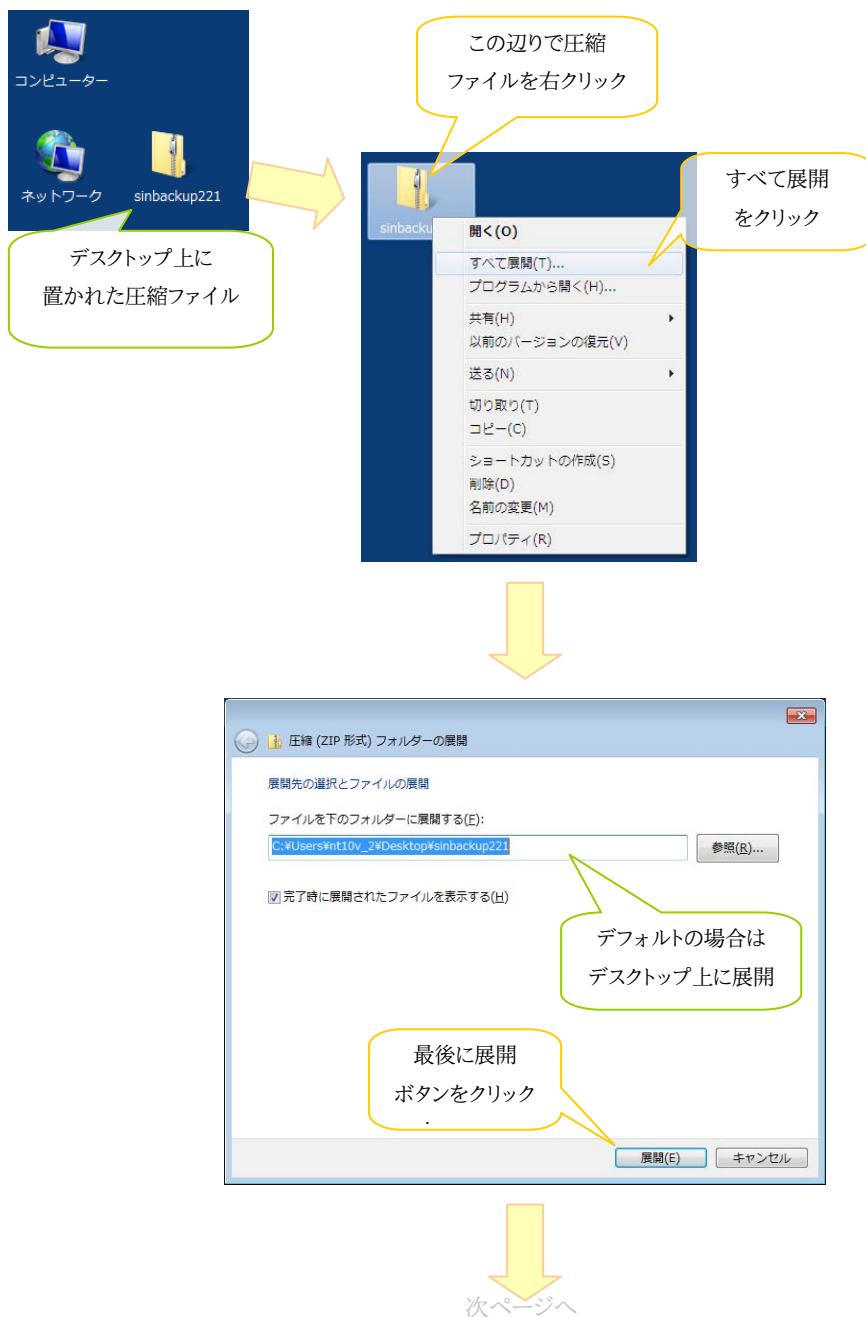
Version 2.2.1, Release 2014/11/15

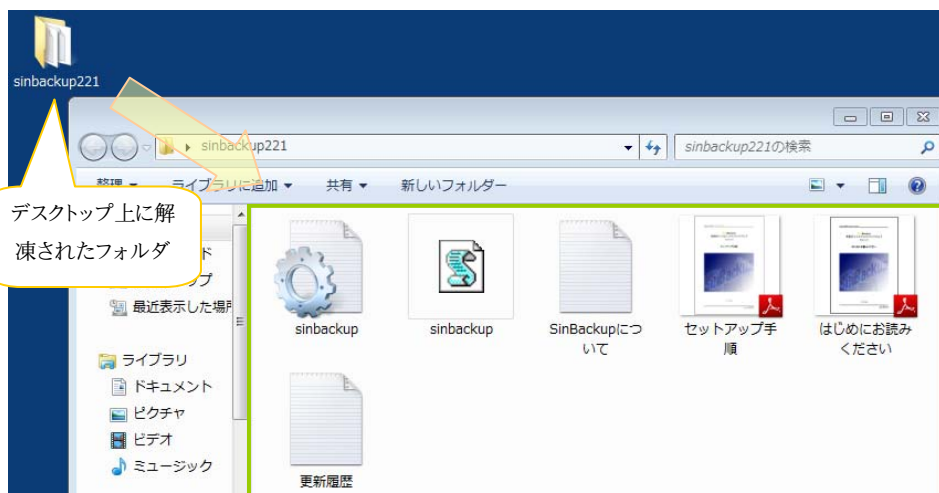
1. インストール

これから、設定ファイル ([sinbackup.ini](#))、プログラムファイル([sinbackup.vbs](#))、及びドキュメント類([TXT](#) と [PDF](#) ファイル)を C:\Program Files 上にインストールします。あらかじめ、別紙『はじめにお読みください (PDF)』をご覧くださいことにより、スムーズにインストール作業が行えます。

さっそく、ダウンロードされた**圧縮ファイル** ([sinbackup221.zip](#)) をデスクトップ上に解凍します。そして、エクスプローラを開き SinBackup というフォルダを C:\Program Files 上に作成します。

なお、セットアップ手順は Windows 7 Professional の画面を例に行います。その他の OS の方は、適宜関連する操作を行ってください。



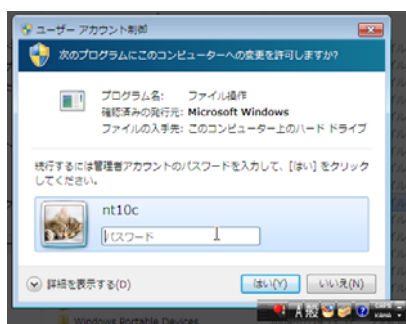
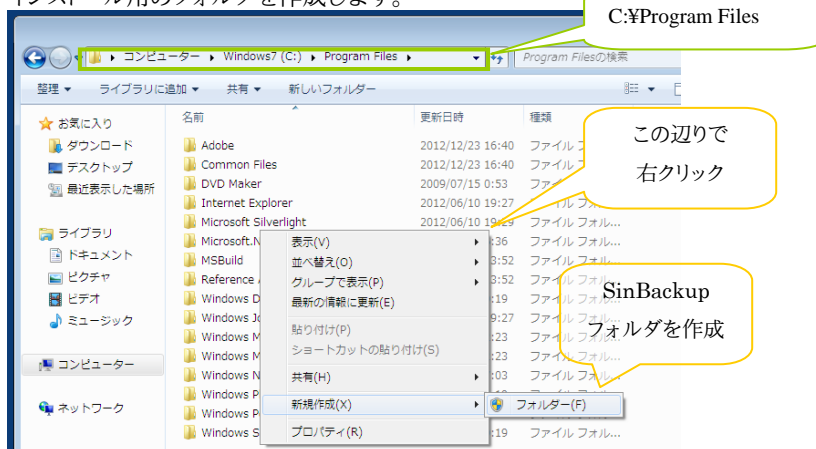


- SinBackup Version 2.2.1 サポートコンポーネント一覧 -

- ・ sinbackup.vbs
 - ・ sinbackup.ini
 - ・ SinBackup について.txt
 - ・ はじめにお読みください.pdf
 - ・ セットアップ手順.pdf
 - ・ 変更履歴.txt
- 合計で 6 コンポーネントが提供されています。

解凍されたフォルダに
収められているファイル一式

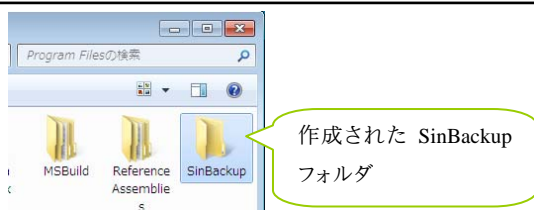
インストール用のフォルダを作成します。



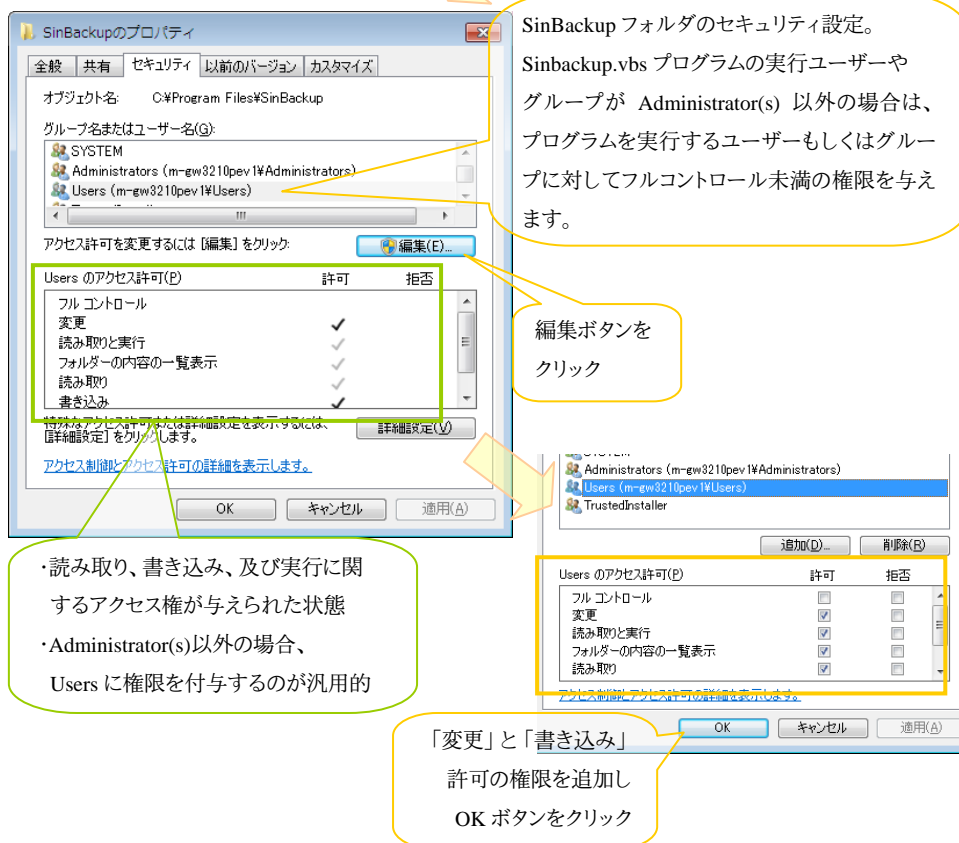
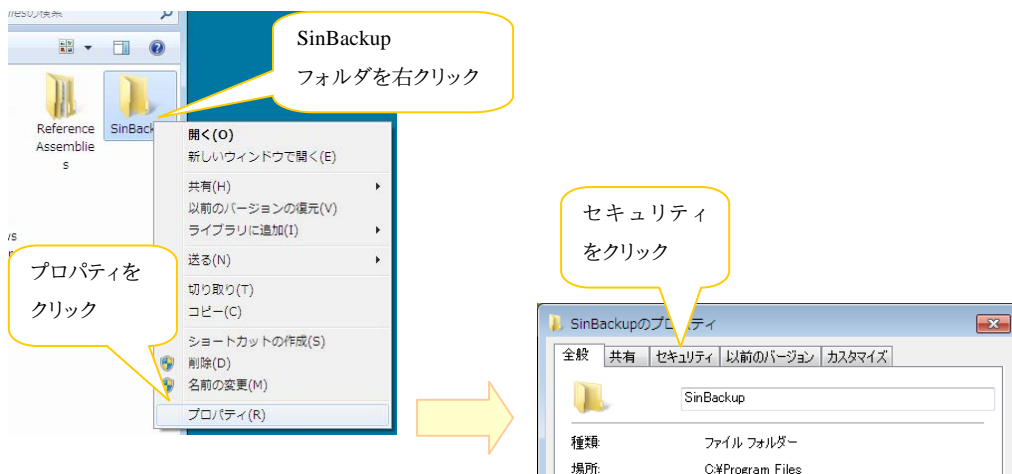
フォルダ作成時に左記画面が表示された場合は、Administrator(s) 管理者パスワードを入力の上、フォルダの作成を行ってください。



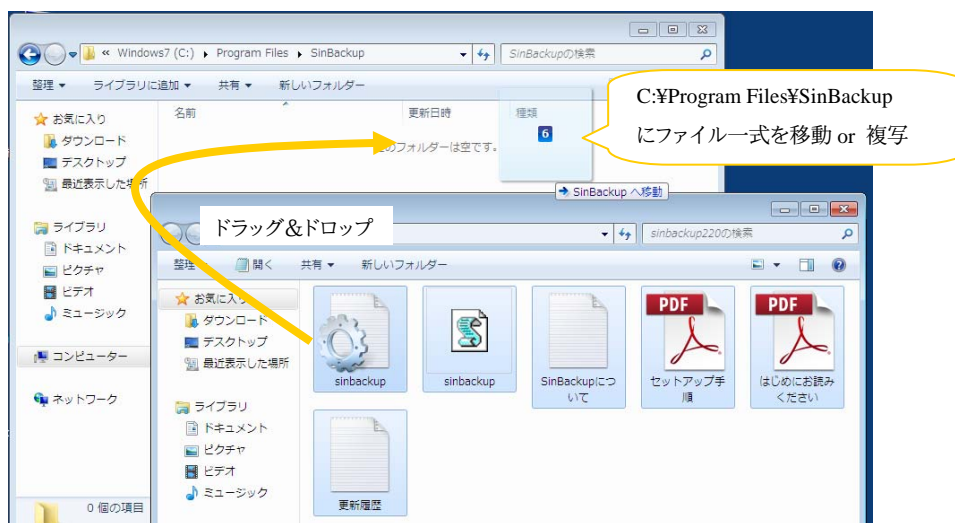
次ページへ



NTFS ディスクの場合は SinBackup フォルダのアクセス権を確認し、必要であれば変更します。



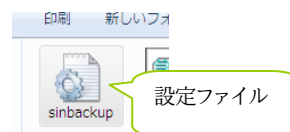
先ほど作成された SinBackup フォルダへ解凍されたファイル一式を移動 (もしくは複写) します。



以上でインストール作業は完了しました。

2. 動作設定

sinbackup.ini 設定ファイルをダブルクリックします。そして、[Batch Process]セクションの設定をバックアップ対象の数だけ行います。



以下に[Batch Process]セクションの設定項目を示します。

設定項目 ※1	設定値 ※2	説明
Title	文字列	ログ出力時に使用するバックアップの名称
Backup_Mode	Active/Sleep	バッチ登録されているバックアップ処理の可否を選択
Log_Record_Mode	Append/Single /Unused	ログのファイル出力方法として追記記録、新規記録、及びログ出力なしから選択
Precheck	Auto/Step	バックアップ開始のユーザー指示の有無を選択
Extensions	*	バックアップを行うファイル拡張子を指定
Source_Path	パス名	バックアップを行う基底のフォルダパスを指定
Destination_Path	パス名	バックアップを保管する基底のフォルダパスを指定
Log_Path	パスとファイル名	バックアップ処理の経過を記録するログファイルのパス及びファイル名を指定

※ 1 これらの設定項目の順番は上から下へ強制されます。仮に、ここに記載の順番とは異なる順番で登録を行った場合は、バッチ処理は開始されません。

※ 2 いずれの設定値も必須入力になります。なお、矛盾や記入の誤りがあった場合は、バッチ処理は開始されません。

その他の設定 [Software]セクション、[System] セクション、[Core_System] セクション、及び [Log_Format] セクションは既定値のままでご使用いただけます。なお、各設定項目の内容、及び設定値の詳細につきましては、別紙『はじめにお読みください(PDF)』をご覧ください。

以下に設定ファイルの記入例を示します。

● バックアップシナリオを2つ登録した場合の記入例

```

*****
' sinbackup.ini (sinbackup.vbs 動作設定ファイル)
' Created by Hiapplica at 2012/12/27
' Form Version 1.1.3 (Update Release #6)
*****

'ソフトウェア関連設定
[Software]
Name      = SinBackup          '処理を行うソフトウェア名
Version   = 1.1.3              '処理を行うフォームバージョン

'プログラム処理関連設定
[System]
Stack_Size      = 32           'ディレクトリの最深階層の指定
File_Count      = 99999        'バックアップの最大数 (1バッチ当たりの最大数)
Detect_Diff_Time = 5           '更新検出の最小時刻差 (秒)
Sync_Properties = Full         '属性の更新頻度指定
Log_Separator   = ","          'ログ出力用の文字列セパレータ
Log_Enclose     = Quote        'ログ出力用の終端記号
Byte_Unit       = Auto         '表示バイト単位の指定
Load_Error_Protection = Stop    'バックアップ読み込みエラー時の動作設定
Write_Error_Protection = Continue 'バックアップ書き込みエラー時の動作設定
ReadOnly_Flag   = Synchronize  '読取専用属性の動作指定
Root_Overwrite  = Trust        'バックアップ保管のルートへの上書き確認指定
Path_Comment    = Used         'バックアップパスのコメント使用の有無
Message         = Normal       '画面案内の表示レベルの指定
Backup_Process_Mode = Add_First 'バックアップ処理方式の指定
Batch_Durability = Exit         '中断バッチ再開時の動作指定
(続きは次ページへ...)

```

(...前ページからの続き)

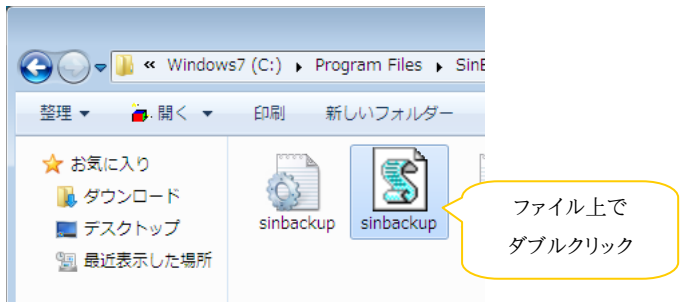
システム処理関連設定		
[Core_System]		
Script	= VBScript5.0	対応 Script のバージョン
Sector_Bytes	= 1000	1 キロバイト当たりのバイト数
Encoding	= Default	ログ出力ファイルのエンコード形式
ログ出力設定		
[Log_Format]		
Header	= Specify	ログヘッダのログ出力設定
Footer	= Specify	ログフッタのログ出力設定
Number	= Active	バックアップ番号のログ出力設定
Date	= Active	バックアップ処理日時のログ出力設定
Process	= Active	バックアップ処理内容のログ出力設定
Source_Path	= Sleep	バックアップ対象パスのログ出力設定
Destination_Path	= Sleep	バックアップ保管パスのログ出力設定
File_Name	= Active	バックアップファイル名のログ出力設定
File_Size	= Active	バックアップファイルサイズのログ出力設定
Sort_Order	= Auto	ログ出力項目の順序設定
バックアップシナリオの定義		
[Batch_Process]		
バックアッププロセス - 1/16		
Title=	Music ライブラリ バックアップ	
Backup_Mode=	Active	
Log_Record_Mode=	Append	
Precheck=	Auto	
Extensions=	*	
Source_Path=	D:\My Music	
Destination_Path=	T:\backup\My Music Backup	
Log_Path=	T:\backup\logs\My Music Backup 履歴.log	
バックアッププロセス - 2/16		
Title=	Outlook Express バックアップ	
Backup_Mode=	Sleep	
Log_Record_Mode=	Append	
Precheck=	Auto	
Extensions=	*	
Source_Path=	D:\Outlook Express	
Destination_Path=	T:\backup\Outlook Express Backup	
Log_Path=	T:\backup\logs\Outlook Express Backup 履歴.log	

2 つ定義した例
バッチエントリーを

記入例の通り、繰り返し設定項目と設定値を記述することでバックアップのバッチエントリーを増やすことが可能です。なお、登録可能な最大バッチエントリー数は、16エントリーとなります。

3. 起動方法

[sinbackup.vbs](#) をダブルクリックします。



以上でセットアップ作業は完了しました。ダブルクリックによりスクリプトが起動されます。

起動の際、設定が正しければ画面には何も表示されずにスクリプトが開始されます。しかし、設定が正しくなければ画面にその旨のメッセージが表示されスクリプトは終了されます。

4. 自動化処理

この節では、手動的なバックアップ処理ではなく定期的にバックアップ処理を行いたい人向けにその手順を説明いたします。

自動実行で利用する機能は、Windows に標準添付されているスケジューラを使用します。なお、OS によってその手順が異なりますので下記表をご覧くださいの上、該当する環境に合った手順書をご覧ください。

自動化処理を行う OS	手順書のファイル名(PDF) □
Windows NT4.0	WindowsNT4.0 環境での SinBackup の自動化手順
Windows Me	WindowsMe 環境での SinBackup の自動化手順
Windows XP	WindowsXP 環境での SinBackup の自動化手順
Windows 7	Windows7 環境での SinBackup の自動化手順

Windows95/98 では、OS に自動実行を行うための機能が備わっておりませんので、サーバー側での制御や別途自動実行が行えるソフトウェアをご用意ください。

※ 手順書は、ホームページ (<http://www.jtk.zaq.ne.jp/hiapplica/sinbackup/>) のダウンロードコーナーより入手可能です。

5. アンインストール

SinBackup は、レジストリや DLL などは使用しておりませんのでインストール時に作成されましたフォルダとそのフォルダ内のファイルを削除するだけでアンインストールは完了いたします。

- EoF -